

3年目

- 到達課題
 - 神経学的診察の理解と実践
 - 神経放射線画像の読影と理解(CT, MRIなど)
 - 神経放射線学的検査手技および診断
 - 特にDSA；鼠径、上腕、橈骨アプローチとカテーテル操作。
 - 病棟管理、術前術後管理
 - 緊急処置の習得（気管内挿管、気管切開、腰椎穿刺、CVC確保など）
 - 助手としての血管内手術手技、開頭術、頭部外傷手術手技、脊椎手術の基本手技の習得
 - 術者として穿頭術の習得
 - CSDH, VPS、脳室ドレナージなど。

4年目

- 到達課題

- 術者としての血管内手術手技、開頭術、頭部外傷手術手技、脊椎手術の基本手技の習得
- microneurosurgeryの基本手技の習得
- 神経解剖学知識の習得
- evidence-based medicine
 - 脳卒中ガイドラインなど各種ガイドラインの理解と実践。
- microsurgeryのoff-the-job training（バイパス手技、ドリル操作）。
- 神戸中央市民病院での研修。

5～6年目

- 到達課題
 - microneurosurgeryの術者（スタッフの指導のもと）
 - 腫瘍摘出術や脳動脈瘤クリッピング術の基本的な手技習得
 - EC/IC bypass術
 - 神経病理学の習得

全てにわたって

- 積極的に学会発表する。
- 積極的に症例に取り組む。
- 科学的考察法や学術論文作成法を学び、研究成果を雑誌に投稿する。専門医取得時までに最低1本は投稿する。
- 筆頭演者として2題以上の発表を行う(全国学会規模)。

症例経験目標

- A. 疾患の管理経験
 - 脳腫瘍 30例（良性腫瘍10例、悪性腫瘍10例）
 - 脳血管障害 40例（虚血性脳血管内障害10例、脳内出血患者10例、クモ膜下出血患者10例）
 - 外傷 20例
 - 脊椎・脊髄 10例
 - 小児 5例
 - 機能 5例（てんかん、不随運動、MVDなど）
 - その他 10例（終末期患者5例、リハビリ患者5例）

症例経験目標

- B. 基本的手術手技の経験

- 穿頭術ないし脳室ドレナージ 術者として10例
- シェント手術 術者として10例
- 開頭・閉頭手技 術者として10例、助手として30例
- 椎弓切除ないし形成術 術者または助手として3例
- 顕微鏡手技 40例（助手として5例）
 - （くも膜切開、腫瘍、血管の露出、血腫除去、ドリリング、吻合操作など）

疾患経験目標

• C. 個別の手術経験

• ①術者または助手としての経験

- 脳腫瘍手術 20例
- 脳動脈瘤・AVM手術 10例
- 脳内血腫除去術 5例（開頭、内視鏡はどちらでも可）
- バイパス・CEA 5例
- 頭部外傷の開頭術 5例（慢性硬膜下血腫を除く）

• ②術者、助手、または見学としての経験

- 脊髄・脊椎 5例
- 15歳以下の小児手術 3例
- MVDを除く機能系手術 3例
- 脳動脈瘤塞栓術 3例
- ステンント留置術 3例
- 内視鏡手術 3例

* この項目は学会認定講習会受講を1例経験として読み替えることも可能（2回まで可）